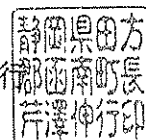




函 建 第 1 6 4 号
平成 1 9 年 4 月 2 6 日

国土交通省道路局長 様

函南町長 芹 澤 伸



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

標記のことについて、別紙のとおり提出いたします。

1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

○東駿河湾環状道路及び一般国道136号函南～三島バイパスの整備促進

高規格幹線道路伊豆縦貫自動車道の一環を形成する東駿河湾環状道路は、昭和63年度から国で事業を進めており、東名沼津インターチェンジから我が函南町に至る延長約15Kmの自動車専用道路であり、東名及び新東名高速道路と連絡し、伊豆地域への重要な路線であり玄関となるものです。

また、一般国道136号函南～三島バイパスは、東駿河湾環状道路大場インターチェンジから函南町の伊豆中央道に至るアクセス道路で、平成9年度から静岡県で事業を進めており、東駿河湾環状道路から伊豆地域への高速交通の導入部として欠かせない道路であります。

現在、伊豆半島中央部への進入路としては、国道1号、国道136号及び函南町内で分岐する伊豆中央道がありますが、東名沼津インターチェンジから函南町内までは慢性的な渋滞となっていることから、次の三点がこの道路の役割と考えます。

- ・高速交通体系が確立され、渋滞緩和や利便性が飛躍的に向上されることにより、伊豆地域において主産業の発展に大きな役割を果たす。
- ・大規模災害発生時には、伊豆地域の主要な緊急輸送道路として重要な役割を果たす。
- ・町では大規模工業団地構想を検討中であり、物資の流通を通して地域の発展に多大な貢献を果たす。

以上のことから、函南町の将来の発展に大きく関わる東駿河湾環状道路及び一般国道136号函南～三島バイパスは、喫緊な整備促進をされ、重点化を進める上で特に優先度の高い施策であるものと確信しております。

また、我が函南町にも、いよいよ高規格道路が姿を現すこととなり、昭和48年3月熱函道路開通、平成15年1月町道大竹トンネル供用開始を遥かに凌ぐ大型プロジェクトとなるため、この道路の整備に全力を挙げて支援していく所存であります。

2 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

○都市部の交通の円滑化による物流の効率化

工業団地や静岡空港など、それぞれを結ぶ道路を整備し交通の円滑化を進めることにより、各種産業に係る物流の時間短縮など効率化が期待できます。東駿河湾環状道路は、時間短縮とともに地元産業の物流に対する低コスト化を実現するものと思われます。

○既存道路施設の延命化による効率的な管理

老朽化した橋梁などを架け替えるには多額の費用がかかり、厳しい財政状況の中では大きな負担となってきます。これを解消するためには、常に保守点検をして小規模の補修で済むような効率的な維持管理を計画していくことが不可欠であります。その結果、橋梁などの延命化が図られ、耐用年数が長くなることにより予算執行額の軽減化が図られることになります。

○道路構造物のコスト削減による効率的な予算措置

道路計画でもっとも重要なものの一つであるコスト削減については、道路行政の課題ではありますが、新しい技術や新しい工法を活用して、当初計画並びに施工段階において見直しを図りながらコストを削減し、効率的な予算措置が図られるようお願いするものです。

3 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関するご意見

○緊急輸送道路の重点的な整備

函南町では、緊急輸送道路に指定されていた県道熱海函南線のトンネルが、平成10年8月の集中豪雨による土砂崩れのため一時通行不能となった経緯があります。

従いまして、災害対策のためにも安全・安心な緊急輸送道路の整備が不可欠であります。幸いにも函南町では高規格幹線道路である東駿河湾環状道路の整備が進められておりますので、緊急輸送道路の確保ができ将来的にも安心しておりますが、このような突発的な災害に対応できる高規格道路の整備が全国的に必要なのではないかと考えます。

○伊豆湘南道路の整備促進

湘南方面から函南町を経て三島・沼津方面を結ぶ新たな広域幹線道路である伊豆湘南道路についても、早期の整備が望まれます。この道路の整備によって、東名道路、新東名道路、国道1号線の補完的幹線道路となり、関東圏との交通上の要衝として、観光の活性化、物流の効率化は勿論、広域的都市間の交流が生まれ、函南町を初めとする当圏域の更なる発展を図ることが可能となるため、東駿河湾環状道路と同様に早期の整備促進を要望致します。